

学校の新しい生活様式

今年の高校球児の姿を見ていて、球児たちが履いていた白いスパイクが印象に残っています。高校野球でも白いスパイクが認められたのですね。これまでは黒一色で、球場の黒土の上で黒いスパイクでプレーすると、足の裏が焼け付くようでした。高校野球も徐々に変わりつつあるようです。

新型コロナウイルスが世間を騒がせて半年以上が経ちました。いろいろな予防策がとられ、時には、窮屈さや面倒くささを感じることもありましたが、しかし、ここまで続けると、それが当たり前のように感じてしまうようになりました。

これが「新しい生活様式」ですね。手洗い一つとってみても、今では外から帰ってきたときに、私は真っ先に洗面所に向かうようになりました。以前は、手洗いの前に何かを触ったり違うことをやったりしていました。皆さんはどうですか。

いよいよバレーボール大会の取り組みが始まりました。今日から昼休みに練習に取り組みます。感染症と熱中症に注意して、無理のない形で取り組みが進むことを期待しています。

その「無理のない形」というのが、今の時期は大切だと思います。これまでの体育大会の取り組みのように、全員が半ば強制的に練習に参加するような雰囲気をつくると、学校生活自体がおもしろくないと感じる生徒が必ず出てきます。本を借りることもや質問をすることができない状態をつくることであってはなりません。

昼休みはその名の通り「休み」なのですから、時間の使い方は個人に委（ゆだ）ねられています。一人ひとりの意見を大切にすることが第3期の狙っているところなので、これまでのように「全員で取り組むべきもの」というようなイメージはできるだけ払拭したいものです。

確かに、学校生活には全員で取り組まなければならぬものがあります。しかし、その前に一人一人が尊重される部分が必要なければなりません。そして、周りの力ではなく、自分自身の判断で「仲間と時と場所を同じくして取り組もう」とする仲間をふやしていくことが大切です。

これが「学校の新しい生活様式」と言えるのかもしれませんが。昔は根性論や競争意識が中心でした。いよいよ新しい価値観や意識が期待される時になってきたようですね。



昼休みにバレーボールの練習をする生徒たち

(八月二十四日 記)